



第19-125号

2020年2月14日

小田急×座間市 サーキュラー・エコノミー連携施策 第2弾 座間市へ「リユース可能な食器」を1000個贈呈します ～両者のロゴも入り、座間市内でのイベントやお祭りなどで活用されます～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、座間市（市長：遠藤 三紀夫）と連携して推進するサーキュラー・エコノミーの取り組みの一環として、リユース可能な食器1000個を、3月上旬に贈呈いたします。

座間市では、2019年10月から使い捨てられる紙食器等によるごみの削減のために、市内で開催されるイベント等の主催者へリユース可能な食器を無料で貸し出す取り組みを始めています。当社では、この取り組みに賛同して食器の提供による協力を行うこととしました。

贈呈する食器は、使用後に洗って繰り返し使える耐久性のあるプラスチック製で、当社と座間市のロゴを入れて、サーキュラー・エコノミー推進に向けたパートナー関係を表しています。

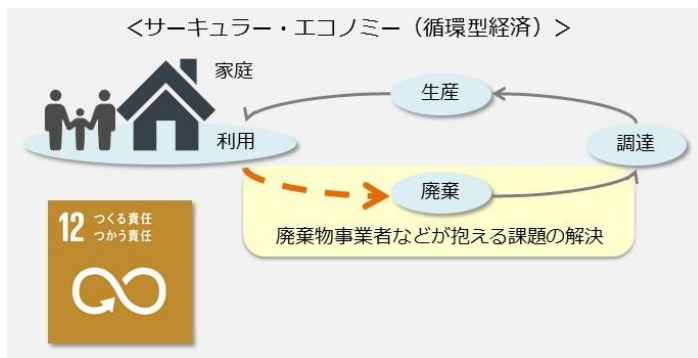


贈呈するプラスチック製食器（おわん）幅120mm



サンプルを手にするざまりん

当社と座間市は、昨年6月、SDGsの目標12「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」の課題等を捉え、持続可能で暮らしやすい街づくりを目指して、「サーキュラー・エコノミー推進に係る連携と協力に関する協定」を締結しました。資源物・ごみに関する業務分野でのテクノロジーの活用の検討や、ダボス会議で共同議長を務めた坂野晶氏を招いて市内小学生を対象に、カードゲームを通じて楽しく遊بينながら「ごみの問題解決」を考える授業を開催するなどの情報発信活動を推進しています。



サーキュラー・エコノミーの概要図



カードゲームを通じた授業の様子

以上